



# N1 Grid Service Provisioning System 5.0 ユーザーガイド (BEA WebLogic Plug-In)

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 819-1543-10  
2004 年 12 月

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: N1 Grid Service Provisioning System 5.0 User's Guide for the BEA WebLogic Plug-In

Part No: 819-0411-10

Revision A



050203@10536



# 目次

---

はじめに	7
<b>1 WebLogic Plug-In の概要</b>	<b>11</b>
WebLogic Plug-In の目的	11
BEA WebLogic Plug-In に含まれるコンポーネント	12
BEA WebLogic Plug-In の使用要件	12
<b>2 BEA WebLogic Plug-In のインストールと構成</b>	<b>15</b>
BEA WebLogic Plug-In の取得	15
BEA WebLogic Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加	15
環境に合わせたソリューションのカスタマイズ	16
<b>3 BEA WebLogic Plug-In の使用</b>	<b>17</b>
WebLogic サーバーおよびクラスタの作成と管理	17
▼ WebLogic Admin Server for 7.0 を作成する	17
▼ WebLogic Admin Server for 6.1 を作成する	19
▼ WebLogic クラスタを作成する	21
▼ WebLogic サーバーインスタンスを管理する	22
WebLogic アプリケーションの取得と編集	25
▼ WebLogic エンタープライズアプリケーションまたは EAR ファイルを取得する	26
▼ WebLogic Web アプリケーションまたは WAR ファイルを取得する	26
▼ WebLogic JAR ファイルを取得する	27
コンポーネントタイプ	27
エンタープライズアプリケーション (EAR) コンポーネントタイプ	27

Web アプリケーション (WAR) コンポーネントタイプ	29
EJB コンポーネントタイプを含む Java アーカイブファイル	30
プラン	31
リソース	31
索引	33

# 表目次

---

表 3-1	WebLogic エンタープライズアプリケーションのエラー状態	28
表 3-2	WebLogic Web アプリケーションのエラー状態	30
表 3-3	WebLogic EJB コンテナのエラー状態	31



## はじめに

---

このマニュアルでは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアを使用して、BEA WebLogic 6.1 および 7 アプリケーションやファイルを取得し配備する方法について説明します。

---

## 対象読者

このマニュアルは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアと BEA WebLogic 6.1 および 7 の機能性を統合したいと考えている N1 Grid Service Provisioning System 5.0 ソフトウェアのシステム管理者およびオペレータを対象にしています。対象読者は、次の知識があることを前提とします。

- N1 Grid Service Provisioning System 5.0 製品
- 標準の UNIX<sup>®</sup> および Windows コマンドとユーティリティ
- 一般的概念および BEA WebLogic 6.1 および 7 製品で使用可能な管理機能

---

## お読みになる前に

N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアの使用経験がない場合は、次のマニュアルの一読をお勧めします。

- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 リリースノート』

---

## このマニュアルの構成

第1章は、BEA WebLogic プラグインソリューションの概要について説明します。

第2章は、プラグインのインストールと構成方法について説明します。

第3章は、プラグインで BEA WebLogic アプリケーションおよびファイルを取得し配備する方法と、WebLogic 特有のコンポーネントタイプについて説明します。

---

## 関連する Sun 以外の Web サイトの参照

このマニュアルで参照されている Sun 以外の URL には、関連する情報が提供されています。

---

注 - このマニュアルで説明する Sun 以外の Web サイトの利用については、Sun は責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って実際に発生した (あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

---

---

## Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

---

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。  system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% <b>su</b> password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。  この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% <b>grep</b> `^#define \  XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

---

## 一般規則

- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

## 第 1 章

---

# WebLogic Plug-In の概要

---

この章では、N1 Grid Service Provisioning System を使用した BEA WebLogic 6.1 および 7 アプリケーションのプロビジョニングについて説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 11 ページの「WebLogic Plug-In の目的」
- 12 ページの「BEA WebLogic Plug-In に含まれるコンポーネント」
- 12 ページの「BEA WebLogic Plug-In の使用要件」

---

## WebLogic Plug-In の目的

N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアは、BEA WebLogic 6.1 および 7 アプリケーションをすぐに使用可能にする増強された機能を提供します。BEA WebLogic アプリケーションは参照サーバーから取得し、このアプリケーションをどのように構成するかを厳密に選択できます。また、アプリケーションをスタンドアロン環境、管理対象環境、またはクラスタ化した BEA WebLogic 環境に配備できます。

---

注 - このプラグインを使用して BEA WebLogic 環境を管理する場合、BEA WebLogic アプリケーションはプロビジョニングソフトウェアの外に配備しないでください。また、プロビジョニングソフトウェアの外で管理しないでください。BEA WebLogic アプリケーションは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアでのみ管理するようにしてください。

---

---

## BEA WebLogic Plug-In に含まれるコンポーネント

BEA WebLogic Plug-In には、複数の WebLogic 特有のコンポーネントタイプと、事前定義のコンポーネントおよびリソースファイルが含まれており、簡単に WebLogic Enterprise、Enterprise JavaBeans (EJB)、および Web Applications を取得、構成、および配備することができます。これらのコンポーネントタイプは、3つのファミリーにグループ化することができます。

- 3種類の WebLogic 仮想ホストをサポートするコンポーネントタイプ
  - WebLogic 管理サーバー
  - WebLogic 管理対象サーバー
  - WebLogic クラスタ
- WebLogic 6.x および 7.x アプリケーションサーバー上で、配備用アプリケーションの配備とプルを行うための特殊コンポーネント
- WebLogic プラットフォームの Enterprise JavaBeans™ テクノロジーベース API で統合された特殊コンポーネントロジック

---

## BEA WebLogic Plug-In の使用要件

BEA WebLogic Plug-In を配備する予定のホストは、次の要件を満たす必要があります。

WebLogic ソフトウェア	BEA Systems WebLogic version 6.1 または 7.0 が、N1 Grid Service Provisioning System 環境に存在する必要があります。これにより、配備するアプリケーションとファイルを取得できます。
オペレーティングシステム	BEA システムによって指定される UNIX または Windows オペレーティングシステムの適切なバージョン
ディスク容量	Windows システムの場合、インストール製品用に約 236M バイトの未使用記憶領域が必要であり、約 170M バイトの一時記憶領域がインストーラに要求されます。  UNIX システムの場合、インストール製品用に約 196M バイトの未使用記憶領域が必要であり、約 162M バイトの一時記憶領域がインストーラに要求されます。
RAM	256M バイト (最小)、512M バイト (推奨)

Java ランタイム環境 (JRE) WebLogic Server のインストールで、JRE が実行されている必要があります。JRE が含まれる Java 2 Software Development Kit (SDK) は、Windows インストールプログラムと、一部の UNIX インストールプログラム (拡張子が .bin) にバンドルされています。ほかの UNIX プラットフォームについては、WebLogic Server インストールプログラムには、Java 2 SDK が含まれません (拡張子が .jar)。.jar インストールプログラムを実行するには、正しいバージョンの Java 2 SDK がシステムにインストールされている必要があります、PATH 変数の先頭に SDK の bin ディレクトリを含める必要があります。インストールプロセスによって、JAVA\_HOME 変数と関連変数がここをポイントするように設定されるため、必ず SDK を使用するよう to してください。

また、配備する WebLogic アプリケーションを取得できる現在の WebLogic 環境が必要です。この環境の必要条件は、以下のとおりです。

WebLogic アプリケーション 必要に応じて構成されている WebLogic 6.1 または 7.0 アプリケーション



## 第 2 章

---

# BEA WebLogic Plug-In のインストールと構成

---

この章では、BEA WebLogic Plug-In のインストールと構成方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 15 ページの「BEA WebLogic Plug-In の取得」
- 15 ページの「BEA WebLogic Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加」
- 16 ページの「環境に合わせたソリューションのカスタマイズ」

---

## BEA WebLogic Plug-In の取得

BEA WebLogic Plug-In は、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアへのプラグインとしてパッケージ化されます。プラグインは、Java™ Archive (JAR) ファイルにパッケージ化されます。BEA WebLogic Plug-In のプラグインファイルは、N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Supplement CD からインストールするか、Sun ダウンロードセンターから入手できます。

---

## BEA WebLogic Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加

指定のプラグインを N1 Grid Service Provisioning System 製品に認識させるには、プラグインをインポートする必要があります。プラグインは、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」で説明する手順に従ってインポートしてください。

1. メインウィンドウの「Administrative」セクションで、「Plug-ins」をクリックします。

2. 「Plug-ins」ページの「Action」カラムで、「Import」をクリックします。
3. `com.sun.weblogic_1.1.jar` ファイルをダウンロードした場所へ移動します。
4. 「Continue to Import」ボタンをクリックします。

インポートが正常に終了したら、プラグインの詳細ページが現れ、プラグインによって提供されるオブジェクトが表示されます。

プラグインアーカイブファイルは、コマンド行からインポートすることもできます。次のコマンドを使用します。

```
% cr-cli -cmd plg.p.add -path com.sun.weblogic_1.1.jar u username -p password
```

---

## 環境に合わせたソリューションのカスタマイズ

BEA WebLogic Plug-In を環境に合わせてカスタマイズする場合は、`com.sun.weblogic_1.1.jar` ファイル内の `readme.txt` ファイルを参照してください。

## 第 3 章

---

# BEA WebLogic Plug-In の使用

---

BEA WebLogic Plug-In は、特有のコンポーネントタイプを多数提供しているため、WebLogic アプリケーションの機能に簡単にアクセスできます。この章では、次の内容について説明します。

- 17 ページの「WebLogic サーバーおよびクラスタの作成と管理」
- 25 ページの「WebLogic アプリケーションの取得と編集」
- 27 ページの「コンポーネントタイプ」
- 31 ページの「プラン」

---

## WebLogic サーバーおよびクラスタの作成と管理

「WebLogic common tasks」ページを使用して、プロビジョニングソフトウェアの WebLogic サーバーおよびクラスタを作成し管理します。次のタスクを実行します。

- 17 ページの「WebLogic Admin Server for 7.0 を作成する」
- 19 ページの「WebLogic Admin Server for 6.1 を作成する」
- 21 ページの「WebLogic クラスタを作成する」
- 22 ページの「WebLogic サーバーインスタンスを管理する」

### ▼ WebLogic Admin Server for 7.0 を作成する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebLogic**」をクリックします。
  2. 「**WebLogic Common Tasks**」ページで、「**Manage 7.0 Admin Servers**」をクリックします。

3. 7.0 Admin Server コンポーネント用の「**Components Details**」ページで、「**default:install**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
4. この管理サーバー用に変数を設定するには、そのウィンドウの「**Plan Parameters**」セクションにある「**Select from List**」をクリックします。
  - デフォルト値とは異なる変数セットを新たに作成するには、「**Create Set**」をクリックします。  
「**Select Variable Setting From List**」ウィンドウが表示されます。
    - a. 表上部にあるテキストフィールドに、新しい変数設定のセット名を入力します。
    - b. **WebLogic** 管理サーバーの名前を指定するには、**adminHost** の横にあるボックスをクリックして、フィールドに名前を入力します。
    - c. **WebLogic** 管理サーバーのポート番号をデフォルト値の **7001** から変更するには、**adminPort** の横にあるボックスをクリックして、フィールドに新しい番号を入力します。
    - d. **WebLogic** 管理サーバーへの接続にセキュア **HTTP** を使用することを指定するには、**secureConnect** の横にあるボックスをクリックして、フィールドに「**True**」を入力します。
    - e. **WebLogic** がインストールされた場所にパスを変更するには、**wlHomeDir** の横にあるボックスをクリックして、フィールドにパスを入力します。
    - f. **WebLogic** ドメイン名を変更するには、**domainName** の横にあるボックスをクリックして、フィールドにドメイン名を入力します。  
残りの変数は事前に定義されていますが、必要に応じて変更することも可能です。
      - **targetRefName** は、ホスト名およびドメイン名の値に基づいて作成されます。この変数の形式は、`: [target:sys.hostName ]_admin_ : [domainName]` です。
      - **installPath** は、ドメイン名の値に基づいて作成されます。この変数の形式は、`admin_ : [domainName]` です。
      - **webLogicJARPath** は、**WebLogic** ホームディレクトリの値に基づいて作成されます。この変数の形式は、`: [wlHomeDir] : [/]weblogic700 : [/]server : [/]lib : [/]weblogic.jar` です。
      - **domainRoot** は、`user_projects` です。
    - g. コンポーネントの変数値を更新したあと、「**Save**」をクリックします。  
新しい変数設定が表に表示されます。
    - h. 「**選択**」をクリックします。
  - 別のコンポーネントに変数設定を使用するには、「**Import Set**」をクリックします。

「Import Variable Settings」ウィンドウが表示されます。

- a. 必要に応じて、インポートする変数設定を持つコンポーネントが含まれるフォルダに移動します。
- b. コンポーネントバージョンを選択します。

---

注 – 変数設定は、コンポーネントのバージョンによって異なります。

---

- c. 「**Import Variable Settings**」をクリックします。  
インポートした変数設定が表に表示されます。
  - d. 「**選択**」をクリックします。
5. ターゲットホストを選択します。
  6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

## ▼ WebLogic Admin Server for 6.1 を作成する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebLogic**」をクリックします。
  2. 「**WebLogic Common Tasks**」ページで、「**Manage 6.1 Admin Servers**」をクリックします。
  3. **6.1 Admin Server** コンポーネント用の「**Components Details**」ページで、「**default:install**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
  4. この管理サーバー用に変数を設定するには、そのウィンドウの「**Plan Parameters**」セクションにある「**Select from List**」をクリックします。
    - デフォルト値とは異なる変数セットを新たに作成するには、「**Create Set**」をクリックします。  
「**Select Variable Setting From List**」ウィンドウが表示されます。
      - a. 表上部にあるテキストフィールドに、新しい変数設定のセット名を入力します。
      - b. **WebLogic** 管理サーバーの名前を指定するには、**adminHost** の横にあるボックスをクリックして、フィールドに名前を入力します。
      - c. **WebLogic** 管理サーバーのポート番号をデフォルト値の **7001** から変更するには、**adminPort** の横にあるボックスをクリックして、フィールドに新しい番号を入力します。

- d. **WebLogic** 管理サーバーへの接続にセキュア **HTTP** を使用することを指定するには、**secureConnect** の横にあるボックスをクリックして、フィールドに「**True**」を入力します。
- e. **WebLogic** がインストールされた場所にパスを変更するには、**wlHomeDir** の横にあるボックスをクリックして、フィールドにパスを入力します。
- f. **WebLogic** ドメイン名を変更するには、**domainName** の横にあるボックスをクリックして、フィールドにドメイン名を入力します。  
残りの変数は事前に定義されていますが、必要に応じて変更することも可能です。
  - **targetRefName** は、ホスト名およびドメイン名の値に基づいて作成されます。この変数の形式は、`: [target:sys.hostName ]_admin_ : [domainName]` です。
  - **installPath** は、ドメイン名の値に基づいて作成されます。この変数の形式は、`admin_ : [domainName]` です。
  - **webLogicJARPath** は、**WebLogic** ホームディレクトリの値に基づいて作成されます。この変数の形式は、`: [wlHomeDir] : [/]lib : [/]weblogic.jar` です。
- g. コンポーネントの変数値を更新したあと、「**Save**」をクリックします。  
新しい変数設定が表に表示されます。
- h. 「**選択**」をクリックします。
- 別のコンポーネントに変数設定を使用するには、「**Import Set**」をクリックします。  
「**Import Variable Settings**」ウィンドウが表示されます。
  - a. 必要に応じて、インポートする変数設定を持つコンポーネントが含まれるフォルダに移動します。
  - b. コンポーネントバージョンを選択します。

---

注 – 変数設定は、コンポーネントのバージョンによって異なります。

---

- c. 「**Import Variable Settings**」をクリックします。  
インポートした変数設定が表に表示されます。
  - d. 「**選択**」をクリックします。
5. ターゲットホストを選択します。
  6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

## ▼ WebLogic クラスタを作成する

WebLogic サーバークラスタは、同時に稼動する複数の WebLogic サーバーインスタンスで構成され、それらが共に動作することで高いスケーラビリティと信頼性を提供します。クライアントからは、クラスタは単一の WebLogic サーバーインスタンスに見えます。クラスタを構成するサーバーインスタンスは、同一マシン上で稼動することも、異なるマシンに置くこともできます。1 台のクラスタマシン上の各サーバーインスタンスは、同一バージョンの WebLogic サーバーを実行する必要があります。

---

注 - N1 Grid Service Provisioning System 環境では、クラスタを作成したあとで、クラスタ内に置く管理対象サーバーを作成します。管理対象サーバーを作成しているあいだ、変数リスト内の任意引数の 1 つはクラスタホスト名です。管理対象サーバーをインストールしているあいだ、このクラスタのホスト名はそれに対する依存性の作成に使用されます。クラスタを作成する前に管理対象サーバーを作成すると、クラスタホストがなくなり、依存性の作成に失敗します。

---

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebLogic**」をクリックします。
  2. 「**WebLogic Common Tasks**」ページで、「**Manage Clusters**」をクリックします。
  3. **WebLogic** クラスタコンポーネント用の「**Components Details**」ページで、「**default:install**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
  4. このクラスタ用に変数を設定するには、そのウィンドウの「**Plan Parameters**」セクションにある「**Select from List**」をクリックします。
    - デフォルト値とは異なる変数セットを新たに作成するには、「**Create Set**」をクリックします。

「**Select Variable Setting From List**」ウィンドウが表示されます。

      - a. 表上部にあるテキストフィールドに、新しい変数設定のセット名を入力します。
      - b. クラスタの名前を指定するには、**targetName** の横にあるボックスをクリックして、フィールドにクラスタ名を入力します。
      - c. コンポーネントの変数値を更新したあと、「**Save**」をクリックします。

新しい変数設定が表に表示されます。
      - d. 「**選択**」をクリックします。
    - 別のコンポーネントに変数設定を使用するには、「**Import Set**」をクリックします。

「**Import Variable Settings**」ウィンドウが表示されます。

- a. 必要に応じて、インポートする変数設定を持つコンポーネントが含まれるフォルダに移動します。
- b. コンポーネントバージョンを選択します。

---

注 – 変数設定は、コンポーネントのバージョンによって異なります。

---

- c. 「**Import Variable Settings**」をクリックします。  
インポートした変数設定が表に表示されます。
  - d. 「**選択**」をクリックします。
5. クラスタを定義するターゲット **WebLogic** 管理サーバーを選択します。
  6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。
  7. 説明に従って、クラスタの一部に含まれるサーバーインスタンスを作成します。

## ▼ WebLogic サーバーインスタンスを管理する

実在する各 WebLogic 管理サーバーに対して、複数のサーバーインスタンスを実行できます。この手順では、WebLogic サーバーインスタンスの作成、起動、および停止方法について説明します。

---

注 – WebLogic アプリケーションは、N1 Grid Service Provisioning System の外で管理しないでください。プロビジョニングソフトウェアを使用する場合、WebLogic アプリケーションは、プロビジョニングソフトウェアでのみ管理するようにしてください。

---

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebLogic**」をクリックします。
  2. 「**WebLogic Common Tasks**」ページで、「**Manage Server Instances**」をクリックします。
  3. 管理対象サーバーインスタンスを作成するには、「**Components Procedures list**」の「**Default:Install**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
    - a. この管理対象サーバーに適用する変数のセットを選択するには、そのウィンドウの「**Plan Parameters**」セクションにある「**Select from List**」をクリックします。
      - デフォルト値とは異なる変数セットを新たに作成するには、「**Create Set**」をクリックします。

「Select Variable Setting From List」ウィンドウが表示されます。

- i. 表上部にあるテキストフィールドに、新しい変数設定のセット名を入力します。
- ii. この管理対象サーバーインスタンスが実行される **WebLogic** 管理サーバーの名前を指定するには、**adminServerHostName** の横にあるボックスをクリックして、フィールドに名前を入力します。この名前は、存在する **WebLogic** 管理サーバーの名前でなければなりません。
- iii. 管理対象サーバーインスタンスに名前を指定するには、**targetName** の横にあるボックスをクリックして、フィールドに名前を入力します。この名前は、**targetName** で使用されて、管理対象サーバーインスタンスの実際の名前が作成されます。
- iv. 管理対象サーバーインスタンスのフルネームを指定するには、**targetRefName** の横にあるボックスをクリックして、フィールドに名前を入力します。  
デフォルトでは、**targetRefName** はホスト名に基づいて作成され、ホストのタイプ (例 「server」) と、前の手順で指定した **targetName** が付きます。
- v. 管理対象サーバーインスタンスをインストールする場所のパスを指定するには、**installPath** の横にあるボックスをクリックして、完全なパス名を入力します。  
デフォルトでは、**installPath** はホストのタイプに基づいて作成され、**adminServerHostName** またはほかの対象可能なコンポーネントのいずれかのドメイン名と、**targetName** が付きます。
- vi. この管理対象サーバーがクラスタの一部に含まれる場合は、**clusterHostName** を指定します。

---

注 - 管理対象サーバーは、このクラスタの存在に依存します。クラスタが存在しない場合は、先にクラスタを作成してから、管理対象サーバーインスタンスの作成と管理を行ってください。

---

**vii. WebLogic 起動スクリプトの完全なパスを指定します。**

適切なスクリプトが存在しない場合、WebLogic サーバーインスタンスを起動できません。デフォルトの WebLogic 起動スクリプトを変更する必要があります。特に、次の変数に値を指定する必要があります。

- **SERVER\_NAME= server\_name** — WebLogic 管理サーバーの名前 (例 `managed2`)
- **ADMIN\_URL= URL\_for\_server** — WebLogic サーバーの URL (例 `http://myplace.domain.me.com:7001/`)

- `WLS_USER=${1}` — WebLogic サーバーで使用されるユーザー名。`${1}` 命名法は、スクリプトを呼び出すときに、指定する最初の引数に WebLogic ユーザー名を設定します。これにより、サーバー起動時にユーザー名を問い合わせるプロンプトは表示されません。
- `WLS_PW=${2}` — WebLogic ユーザー名のパスワード。`${2}` 命名法は、スクリプトを呼び出すときに、2 番目の引数として指定するパスワードに WebLogic パスワードを設定します。これにより、サーバー起動時にパスワードを問い合わせるプロンプトは表示されません。

---

注 - 起動スクリプトにこれらの変更を行う場合、定義した値を無効にするようなスクリプト中の古い情報は、必ず削除するようにしてください。また、スクリプトはバックグラウンドで実行されるように設定し、スクリプトの入出力ストリームはリダイレクトするようにしてください。

---

viii. コンポーネントの変数値を更新したあと、「**Save**」をクリックします。  
新しい変数設定が表に表示されます。

ix. 「選択」をクリックします。

管理対象サーバーインスタンス用の「**Components Details**」ページに戻ります。

- 別のコンポーネントに変数設定を使用するには、「**Import Set**」をクリックします。

「**Import Variable Settings**」ウィンドウが表示されます。

i. 必要に応じて、インポートする変数設定を持つコンポーネントが含まれるフォルダに移動します。

ii. コンポーネントバージョンを選択します。

---

注 - 変数設定は、コンポーネントのバージョンによって異なります。

---

iii. 「**Import Variable Settings**」をクリックします。

インポートした変数設定が表に表示されます。

iv. 「選択」をクリックします。

管理対象サーバーインスタンス用の「**Components Details**」ページに戻ります。

- b. 管理対象サーバーインスタンスの「**Components Details**」ページで、この管理対象サーバーインスタンスを実行するターゲットホストを選択します。

c. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

4. **WebLogic** 管理対象サーバーインスタンスを起動するには、管理対象サーバーインスタンス用の「**Components Details**」ページにある「**Component Procedures list**」の「**Start**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
  - a. 管理対象サーバーを選択します。
  - b. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。
  - c. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。
5. **WebLogic** 管理対象サーバーインスタンスを停止するには、管理対象サーバーインスタンス用の「**Components Details**」ページにある「**Component Procedures list**」の「**Stop**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
  - a. 管理対象サーバーを選択します。
  - b. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。
  - c. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

---

## WebLogic アプリケーションの取得と編集

「WebLogic Common Tasks」ページでは、WebLogic Enterprise、EJB™、および Web アプリケーションの取得、構成、および配備を行えます。

次のタスクを実行します。

- 26 ページの「WebLogic エンタープライズアプリケーションまたは EAR ファイルを取得する」
- 26 ページの「WebLogic Web アプリケーションまたは WAR ファイルを取得する」
- 27 ページの「WebLogic JAR ファイルを取得する」

---

注 – WebLogic アプリケーションは、N1 Grid Service Provisioning System の外に配備しないでください。プロビジョニングソフトウェアを使用する場合、WebLogic アプリケーションは、プロビジョニングソフトウェアでのみ管理するようにしてください。

---

## ▼ WebLogic エンタープライズアプリケーションまたは EAR ファイルを取得する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebLogic**」をクリックします。
  2. 「**WebLogic Common Tasks**」ページで「**Create New in the Enterprise Applications (EAR)**」セクションをクリックします。
  3. このコンポーネントのラベルを入力します。
  4. このコンポーネントの説明を入力します。
  5. このエンタープライズアプリケーションを置く **WebLogic** 管理サーバーを選択します。
  6. 階層をナビゲートして、取得するエンタープライズアプリケーションを見つけます。
  7. 「**Check-in Selected Item**」をクリックします。
  8. 「**check-in**」ページの情報を確認して、「**Continue to Check-in**」をクリックします。

## ▼ WebLogic Web アプリケーションまたは WAR ファイルを取得する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebLogic**」をクリックします。
  2. 「**WebLogic Common Tasks**」ページで「**Create New in the Web Applications (WAR)**」セクションをクリックします。
  3. このコンポーネントのラベルを入力します。
  4. このコンポーネントの説明を入力します。
  5. この **Web** アプリケーションを置く **WebLogic** 管理サーバーを選択します。
  6. 階層をナビゲートして、取得する **Web** アプリケーションを見つけます。
  7. 「**Check-in Selected Item**」をクリックします。
  8. 「**check-in**」ページの情報を確認して、「**Continue to Check-in**」をクリックします。

## ▼ WebLogic JAR ファイルを取得する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebLogic**」をクリックします。
  2. 「**WebLogic Common Tasks**」ページで「**Java Archives Containing EJBs (JAR)**」セクションをクリックします。
  3. このコンポーネントのラベルを入力します。
  4. このコンポーネントの説明を入力します。
  5. この **JAR** ファイルを置く **WebLogic** 管理サーバーを選択します。
  6. 階層をナビゲートして、取得する **JAR** ファイルを見つけます。
  7. 「**Check-in Selected Item**」をクリックします。
  8. 「**check-in**」ページの情報を確認して、「**Continue to Check-in**」をクリックします。

---

## コンポーネントタイプ

BEA WebLogic Plug-In は、いくつかの WebLogic 特有のコンポーネントタイプを含みます。これらのコンポーネントタイプによって、最も一般的な WebLogic アプリケーションコンポーネントの多くをすばやくモデル化できます。また、インストール、アンインストール、エクスポート、およびスナップショット動作を、自動的に特定のリソースに関連付けます。サーバーおよびクラスタを作成し管理する場合、コンポーネントタイプのほとんどはソフトウェアによって使用されます。そのため、直接操作するコンポーネントタイプは次のとおりです。

- エンタープライズアプリケーション (EAR)
- Web アプリケーション (WAR)
- Enterprise JavaBeans (EJB) を含む Java Archive (JAR) ファイル

## エンタープライズアプリケーション (EAR) コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、エンタープライズアプリケーションをモデル化します。コンポーネントは、パッケージとして、エンタープライズアプリケーションアーカイブ (EAR) または EAR の拡張バージョンを含みます。

## エンタープライズアプリケーションのブラウズ

次のブラウザのいずれか 1 つを使用して、このコンポーネントタイプ用のエンタープライズアプリケーションを選択します。

- 管理サーバーのブラウザ。インストール済みのアプリケーションの 1 つと、その関連設定を選択できます。管理サーバーのブラウザに、管理サーバー上のエンタープライズアプリケーションをアルファベット順に示すリストが表示されます。1 つのコンポーネントにつき 1 つのエンタープライズアプリケーションを選べます。
- ファイルシステムのブラウザ。EAR ファイルを選択して、設定を含まないコンポーネントを作成できます。ファイルシステムのブラウザに、選択可能なファイルおよびディレクトリのリストが表示されます。これらのファイルのみの表示を選択するか、ブラウザに \*.ear と入力します。

## エンタープライズアプリケーションのインストール

エンタープライズアプリケーションコンポーネントをインストールするには、ターゲットホストとして、WebLogic サーバーまたはクラスタを使用する必要があります。インストールプロセスでは、次の 3 つの主要タスクを実行します。

1. ターゲットに EAR ファイルをインストールする
2. WebLogic 管理サーバーに EAR を登録する
3. ドメインのブラウズ時に以前取得したプロパティを適用する

## エンタープライズアプリケーションのアンインストール

エンタープライズアプリケーションコンポーネントをアンインストールするには、ターゲットから、エンタープライズアプリケーションのターゲット解除を行います。エンタープライズアプリケーションがどこからもターゲットになっていなければ、登録コンポーネントは、管理サーバーから削除されます。

## エラー状態

表 3-1 WebLogic エンタープライズアプリケーションのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	トポロジが不正に構成されている (ターゲットホストは正しいドメインホストでポイントされない)	ターゲットの指定に失敗する
インストール	ターゲットホストが有効な WebLogic ターゲットではない	インストールできない

表 3-1 WebLogic エンタープライズアプリケーションのエラー状態 (続き)

アクション	状態	結果
ブラウズ/インストール/アンインストール	資格証明が正しく構成されていない	操作に失敗する
ブラウズ	ドメインホストでパスが正しく構成されていない	ブラウズに失敗する

## Web アプリケーション (WAR) コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、Web アプリケーションを含みます。コンポーネントは、関連設定を持つ Web アプリケーションか、関連設定を持たない Web アプリケーションのいずれかを含むことができます。

### Web アプリケーションのブラウズ

次のブラウザのいずれか 1 つを使用して、このコンポーネントタイプ用の Web アプリケーションを選択します。

- 管理サーバーのブラウザ。インストール済みのアプリケーションの 1 つと、その関連設定を選択できます。管理サーバーのブラウザに、管理サーバー上の Web アプリケーションをアルファベット順に示すリストが表示されます。1 つのコンポーネントにつき 1 つの Web アプリケーションを選べます。
- ファイルシステムのブラウザ。WAR ファイルを選択して、設定を含まないコンポーネントを作成できます。ファイルシステムのブラウザに、選択可能なファイルおよびディレクトリのリストが表示されます。これらのファイルのみの表示を選択するか、ブラウザに \*.war と入力します。

### Web アプリケーションのインストール

Web アプリケーションコンポーネントをインストールするには、ターゲットホストとして、WebLogic サーバーまたはクラスタを使用する必要があります。インストールプロセスは、コンポーネントをターゲットにインストールし、含まれる登録コンポーネントをターゲットの管理サーバーにインストールします。

### Web アプリケーションのアンインストール

Web アプリケーションコンポーネントをアンインストールするには、ターゲットから、Web アプリケーションのターゲット解除を行います。Web アプリケーションがどこからもターゲットになっていなければ、登録コンポーネントは、管理サーバーから削除されます。

## エラー状態

表 3-2 WebLogic Web アプリケーションのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	トポロジが不正に構成されている (ターゲットホストは正しいドメインホストでポイントされない)	ターゲットの指定に失敗する
インストール	ターゲットホストが有効な WebLogic ターゲットではない	インストールできない
ブラウズ/インストール/アンインストール	資格証明が正しく構成されていない	操作に失敗する
ブラウズ	ドメインホストでパスが正しく構成されていない	ブラウズに失敗する

## EJB コンポーネントタイプを含む Java アーカイブファイル

### ブラウズ

次のブラウザのいずれか 1 つを使用して、このコンポーネントタイプ用の EJB または JAR ファイルを選択します。

- 管理サーバーのブラウザ。インストール済みのアプリケーションの 1 つと、その関連設定を選択できます。管理サーバーのブラウザに、管理サーバー上のアプリケーションをアルファベット順に示すリストが表示されます。1 つの EJB をコンポーネント用に選択できます。
- ファイルシステムのブラウザ。JAR ファイルを選択して、設定を含まないコンポーネントを作成できます。ファイルシステムのブラウザは、選択可能なファイルおよびディレクトリのリストを提供します。これらのファイルのみの表示を選択するか、ブラウザに \*.jar と入力します。

### インストール

このタイプのコンポーネントをインストールすると、ファイルまたはディレクトリは、インストールパスに基づくファイルシステムにコピーされます。コピーが終了すると、ファイルまたはディレクトリは WebLogic 管理サーバーに登録されます。

### アンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、ファイルまたはディレクトリはマスタサーバーから削除されます。

## エラー状態

表 3-3 WebLogic EJB コンテナのエラー状態

アクション	状態	結果
アンインストール	依存 WebLogic EJB がまだインストールされている	依存があることを示して、アンインストールに失敗

---

## プラン

BEA WebLogic Plug-In によって含まれる事前に定義されたプランはありません。

---

## リソース

BEA WebLogic Plug-In によって含まれる追加リソースはありません。



# 索引

---

## E

- EAR
  - コンポーネントタイプ, 27-29
  - 取得する, 26
- EJB
  - コンポーネントタイプ, 30-31
  - 取得する, 27
- EJB を取得する, 27

## J

- JAR
  - コンポーネントタイプ, 30-31
  - 取得する, 27
- JAR ファイル, 15
- JAR ファイルを取得する, 27
- Java Archive, 「JAR ファイル」を参照

## W

- WAR
  - コンポーネントタイプ, 29-30
  - 取得する, 26
- WebLogic 6.1
  - 管理サーバー, 19-20
  - 管理対象サーバーインスタンス, 22-25
  - クラスタ, 21-22
- WebLogic 7.0
  - 管理サーバー, 17-19
  - 管理対象サーバーインスタンス, 22-25
  - クラスタ, 21-22

## WebLogic Plug-In

- インポートする, 15-16
- 構成, 16
- パーツ, 12
- 配備サーバーの要件, 12-13
- web アプリケーション
  - コンポーネントタイプ, 29-30
  - 取得する, 26
- web アプリケーションを取得する, 26

## え

- エンタープライズアプリケーション
  - コンポーネントタイプ, 27-29
  - 取得する, 26
- エンタープライズアプリケーションを取得する, 26

## か

- 管理サーバー
  - WebLogic 6.1, 19-20
  - WebLogic 7.0, 17-19
- 管理対象サーバーインスタンス, 22-25

## く

- クラスタ, 21-22

## こ

コンポーネントタイプ

EAR, 27-29

EJB, 30-31

JAR, 30-31

WAR, 29-30

web アプリケーション, 29-30

エンタープライズアプリケーション, 27-29

## は

配備サーバーの要件, 12-13

## ふ

プラグインファイル

インポートする, 15-16

の場所, 15

プラグインをインポートする, 15-16

プラグインを構成する, 16